

# 事業報告書

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人 和敬塾

## 1. 事業の概要

本年度におきましても、建塾の趣意に則り、その目的を達成するために「公益財団法人和敬塾 定款」第4条の各事業を行いました。

つきましては、これまで培って来た良き和敬塾の精神文化を継承しつつ、新しい時代に受け入れられる「共同生活を通じた人間形成の場」を作り、他の大学生寮や宿舎との棲み分けを進めることにより、広く社会に和敬塾の存在を知らしめ、多くの塾生を迎え入れるとともに、前途有為な青年を輩出すべく、役職員一同、下記の事業に取り組みました。

次に、実施しました事業の活動の概況等を項目別にご報告致します。

### (1) 学生寮並びに研修施設・体育施設・生活施設の運営（1号事業）

#### ①共同生活の場である各施設的良好なる状態維持の為の改修工事等

- \*学生ホール煙突補修工事、学生ホール火災受信盤単独化工事等を行った。
- \*空調設備、電気設備、エレベーター、給排水ポンプ、ボイラー、消防設備、特殊建物等の各種保守点検を行なった。
- \*空調機等の修理並びに取り換え工事を行なった。
- \*樹木の剪定及び伐採を行なった。
- \*厨房床補修工事を行った。

#### ②現有施設の保守並びに有効利用

- \*①項の各種工事並びに定期点検を行うと共に、主として和敬塾本館を収益事業として外部への貸出を行った。

#### ③各寮の特徴、特色を活かす為の諸施設の活用

- \*各寮のイベントが開催され、またその際に、食堂グループが特別メニューにて食事を提供する等、積極的に行った。

### (2) 入寮学生の共同生活による修養・研鑽への援助（2号事業）

#### ①入塾式、塾祭、体育祭、予餞会、シンポジウム、日本伝統歳事の実施

- \*新生受入れ行事を含む入塾式、創立記念塾祭、各寮対抗競技の体育祭、予餞会の四大大行事を塾生主体で企画し実行することによって自主性、協調性を養い、自らの人間形成に資するよう実施した。
- \*6月11日に、現役文部科学大臣の柴山昌彦先生によるシンポジウム「Society 5.0 到来と今後の教育の方向性」を開催し、首都圏の高校、大学等の関係者らもお招きした。

#### ②新入塾生に対する和敬塾設立理念並びに生活規範のオリエンテーション

- \*和敬塾設立理念等を理解させるべく新入塾生オリエンテーションを行った。
- \*生活規範への理解として、各寮においてオリエンテーションを行った。

#### ③各寮に於ける教養活動・イベント並びに既存の教養講座の開催

- \*入塾式の一環として教養講座紹介フェアを開催し、塾生・師範・顧問らが協力して模範演技等を行い各教養講座へ新入塾生の勧誘に努めた。
- \*各教養講座のより一層の活性化を図る為、師範・顧問・塾生が各講座の意義を共通認識して、積極的に参加を呼びかけた。

#### ④各寮塾生委員会若しくは班が主催する行事の開催

- \*各行事（体育祭・塾祭等）に関しては、その目的・意義を認識させ塾生が主体性をもって企画、実施、反省を行なうよう指導し、無事に開催した。

- ⑤一年生面談及び年末一・二・三年生継続面接の実施と助言並びにその発展的活用  
 ＊寮長、副寮長が、塾生と個別に面談し、それぞれの生活実態について話し合い、より人間的な成長を促した。  
 具体的には、6月～7月にかけて新入塾生と面談し、面談内容をそれぞれの父母へ、大学生として初めて共同生活を体験したことにより起きた心の変化や成長を伝えた。また、12月～1月にかけては一年生、二年生、三年生と対話し、自分の役割や学年毎の役割を気づかせるとともに継続在塾の意志を確認している。
- ⑥寮長及び副寮長による日常生活を通じた寮生の人間形成  
 ＊各寮委員会の会議、各寮総会への参加並びに日常生活での様々な場面をとらえて行なった。
- ⑦塾誌「和敬」並びに「和敬塾だより」の発行による塾生父母並びに塾友との共同体化  
 ＊「和敬塾だより」第6号を4月、第7号を翌年2月に発行し、塾行事や新入塾生、卒業生を紹介した。なお、塾誌「和敬」は現在、編集作業を行っている。
- ⑧塾友、外部学生との交流活動並びに研修会の開催による寮生の視野の醸成と拡大  
 ＊7月4日～5日にかけて、中華民国大学生訪日研修団と当塾塾生との交流合宿が和敬塾本館にて行なわれ、塾内見学、茶道体験、歓迎夕食会、討論会などを通して文化交流を行なった。  
 ＊社会経験豊かな塾友による、和敬セミナーが数回開催された。
- ⑨塾友との各種情報交換並びに講演会等の共同企画・開催による寮生の卒業後の準備  
 ＊和敬塾卒業生のOB会である塾友会との連携を深めるため緊密な情報交換を行うとともに、「賀詞交歓会」、講演会を含む「ホームカミング大会」等への協力を行なった。
- ⑩日本人学生と留学生との交流による相互理解の促進と国際性の醸成  
 ＊塾主催行事並びに各寮委員会行事、各寮の班行事への留学生の参加を通して、相互理解を深めた。
- ⑪所轄官庁の協力による防災意識並びに安全管理の啓蒙  
 ＊必要に応じて大塚警察署並びに小石川消防署、小石川保健所等から助言を受け防災訓練の実施（5月25日）等、防災体制の確立に努めた。  
 ＊防災倉庫、備蓄食糧庫、災害時用諸機材の点検などを定期的に行なっている。  
 ＊新型コロナウイルスへの対応については、3月に佐藤専務理事を本部長とする「和敬塾コロナ対策本部」を設置し、小石川保健所から専門員の派遣を仰ぐとともに、各部門および寮生の協力のもと、感染防止に努めている。
- ⑫地域社会との交流を目指した近隣文化活動等の実施  
 ＊塾生の地域社会に対する奉仕の実践の場として、地域の美化活動等を行なった。

### (3) 講演会・講座・討論会等の開催（3号事業）

- ①入塾式、塾祭、予餞会での記念講演  
 ＊後述の通り、各界の有識者をお招きして開催した。
- ②役職員並びに講師と塾生との懇談会並びに懇親会  
 ＊新・旧塾生委員会交代会等を開催した。  
 ＊講演会では、質疑応答の時間や講師との対話をする場を設けた。
- ③各寮塾生主催による講演会、シンポジウム等の開催  
 ＊異寮（院生寮の流れを組む新南寮）寮生による研究発表会等を行なった。
- ④別冊「和敬」による講演記録の発行  
 ＊現在、編集作業を行っている。
- ⑤在塾生の為の企業説明会並びにマナー講習会  
 ＊塾友による企業説明会が開催された。  
 ＊2月26日、27日に外部の講師を招聘し、マナー講習会を行った。

⑥班会議並びに寮内討論会の開催

\*各寮において、塾生委員会を開催し、班会議も随時行った。

\*寮の特徴・特色を醸成するため、理事長と塾生委員会の懇談会を随時開催した。

(4) 奨学金の貸与 (4号事業)

①計11名に貸与した。

(5) 東京都指定有形文化財「旧細川侯爵邸」の保存並びに活用 (5号事業)

①本館文化財指定に基づく一般公開

\*概ね各月2回程度を目処とした定期公開等の自主公開並びに東京都主催による文化財ウィークにおいて一般公開を行なった。参加者は、約350名であった。

②塾生のための文化事業の場として活用

\*中華民国大学生訪日研修団と塾生との交流の場として活用した。

\*茶道部、坐禅道部等の会場として活用した。

\*マナー講習会の会場として活用した。

(6) その他、第4条の目的を達成するために必要な事業 (6号事業)

①各寮ホームページ、ブログ等による継続的情報発信による募集活動

\*情報発信力を高めるため、既存のホームページのほか、和敬塾公式 FaceBook、twitter、Instagram にて、随時イベントや、塾生の日々の生活を紹介した。

\*早稲田大学合格者に配布される冊子「学生寮のご案内」に大学提携寮として和敬塾の案内が掲載された。その他、在寮が二年間である早稲田大学直営寮の退寮者に和敬塾の案内を配布、また、留学生短期プログラムの宿舎として和敬塾を紹介等、早稲田大学との関係が深まった。

\*「学生会館ほっとステーション」「学生寮ガイド」等の学生寮情報サイトに登録した。

\*東大生協パンフレットに広告を掲載した。

\*不動産情報サイト「e-部屋探し」「学校から探す賃貸物件」に登録した。

②塾生出身校、塾生父兄並びに卒塾生との関係強化による募集活動

\*塾生及び塾友に同行してもらい塾生出身校を訪問し、進路指導の先生等に和敬塾の紹介と入塾案内を行った。

\*塾友会支部との交流を深め、募集活動の支援を得た。

\*各寮の職員が塾生の保護者と関係性を深め、その結果、保護者による新入塾生の紹介が増えた。

③新規収益事業の開発

\*収益事業化を視野に入れた研修センター開設の準備を行った。

(7) 講演会、シンポジウム、セミナー、文化活動

年 月 日			
平成 31. 4. 7 入塾式 記念講演会	演題 講師	君は大学で何を得るのか? 国立大学法人東京農工大学長	大野 弘幸
令和 1. 5. 12 創立記念塾祭 記念講演会	演題 講師	日本人と改革—我が人生の羅針盤— 前農林水産大臣 衆議院議員	齋藤 健
令和 1. 6. 11 シンポジウム	演題 講師	Society 5.0 到来と今後の教育の方向性 文部科学大臣	柴山 昌彦
令和 1. 12. 15 予餞会 記念講演会	演題 講師	禅に学ぶ人の育て方 臨済宗妙心寺派退蔵院	松山 大耕

(8) 教養講座

一流講師の直接指導を受けて、合宿や会食も取り入れ、お互いに切磋琢磨をはかっている。実施した講座と講師は下記の通り。

( 講 座 名 )	( 講 師 )	( 講 座 名 )	( 講 師 )
茶 道	江川 宗京	書 道	岡本 光平
空 手 道	岡 精近	居 合 道	山崎 誉
中国古典輪読会	信夫 息游	絵 画 研 究 会	上葛 明広
直心影流法定	〃	坐 禅	高石 昭二郎
剣 道	塚本 博之	グレートブックス研究会	犬塚 潤一郎
柔 道	柏崎 克彦	英 会 話 教 室	Malcolm MacNeil

(9) 入塾選考

入塾選考は、入塾願書による選考の後、塾設立の趣旨、塾生活の内容を説明し、理解させた上で面接または書類選考を行い、入塾を決定している。なお、令和元年度の新入塾生は日本人新入生67名（春：新一年61名、新二年2名、新三年1名、新四年1名 秋：一年2名）、日本人再入塾6名、留学生62名の計135名であった。院生の募集は行わなかった。

尚、平成30年度の新入塾生は日本人新入生73名（春：新一年65名、新二年2名、新三年1名、新四年1名、院生2名 秋：二年1名、三年1名）、日本人再入塾4名、留学生44名の計121名であった。

(10) 留学生に関して

令和元年度は、114名の留学生が在籍し、日本人塾生との共同生活並びに行事や教養講座への参加・活動を通して、日本文化への理解を深めている。また、早稲田大学および上智大学経由で短期プログラム留学生の紹介があった。

尚、平成30年度は100名の留学生が在籍した（1～4ヶ月程度の短期生も含む）。

大学別塾生数一覧表

(平成31年4月1日現在)

No	大 学	一年生	二年生	三年生	四年生	OB・大学院等	留学生	合 計
1	早稲田大学	32	20	9	15	4	40	120
2	上智大学	2	2	1	0	0	12	17
3	東京大学	3	8	0	1	4	1	17
4	日本大学	3	8	2	4	0	0	17
5	明治大学	4	2	5	5	1	0	17
6	東京理科大学	5	3	2	1	0	1	12
7	青山学院大学	0	1	3	3	0	1	8
8	慶應義塾大学	1	3	0	3	0	0	7
9	学習院大学	0	1	1	2	1	1	6
10	國學院大学	1	2	2	0	0	0	5
11	成蹊大学	2	2	0	0	0	0	4
12	法政大学	1	1	0	2	0	0	4
13	東洋大学	0	1	2	0	0	0	3
14	立教大学	0	0	1	1	1	0	3
15	国士舘大学	1	0	0	1	0	0	2
16	順天堂大学	1	0	0	0	0	1	2
17	専修大学	0	0	2	0	0	0	2
18	中央大学	0	1	1	0	0	0	2
19	東京農業大学	1	1	0	0	0	0	2
20	一橋大学	0	1	1	0	0	0	2
21	立正大学	1	0	1	0	0	0	2
22	芝浦工業大学	0	0	0	1	0	0	1
23	昭和大学	0	0	0	1	0	0	1
24	拓殖大学	0	0	0	1	0	0	1
25	玉川大学	0	1	0	0	0	0	1
26	東京海洋大学	0	0	1	0	0	0	1
27	東京工業大学	0	0	0	0	0	1	1
28	東京都市大学	0	1	0	0	0	0	1
29	東京農工大学	0	1	0	0	0	0	1
30	東洋学園大学	0	0	1	0	0	0	1
31	日本歯科大学	0	0	1	0	0	0	1
32	日本獣医生命科学大学	0	0	1	0	0	0	1
33	文京学院大学	0	1	0	0	0	0	1
34	武蔵野大学	0	1	0	0	0	0	1
35	横浜国立大学	1	0	0	0	0	0	1
36	インターンシップ	0	0	0	0	0	1	1
	合 計	59	62	37	41	11	59	269
	昨 年 度	65	41	43	42	17	47	255

## 2. 処務の概要

### 役員等に関する事項

(令和2年3月31日現在)

役職名	氏名	就任年月日	担任職務	常勤・非常勤
理事	前川正雄	H24. 2. 1	理事長	非常勤
〃	前川正	H30. 6. 27	副理事長	常勤
〃	佐藤一義	H25. 11. 1	専務理事	〃
〃	栃木弘義	H24. 2. 1		非常勤
〃	奥島孝康	H24. 9. 24		〃
〃	藁谷友紀	〃		〃
〃	柳川邦衛	H27. 6. 23		〃
〃	岩木勅一	H28. 6. 27		〃
〃	加茂田信則	H29. 4. 21		常勤
〃	跡見裕	H30. 6. 27		非常勤
〃	平沢泉	H30. 6. 27		〃
〃	岩崎嘉夫	R02. 3. 14		常勤
〃	金澤岳夫	〃		〃
〃	賀集豊	〃		非常勤
〃	中島勝之	〃		〃
監事	笠原將敏	H24. 2. 1		非常勤
〃	山内豊	〃		〃
評議員	加藤英二	H24. 2. 1		非常勤
〃	河合素直	〃		〃
〃	田島信元	〃		〃
〃	細越峻	〃		〃
〃	松岡章次	〃		〃
〃	宮野忠夫	〃		〃
〃	渡邊重範	〃		〃
〃	石光豊	H27. 6. 23		〃
〃	太田朝生	〃		〃
〃	福原毅	〃		〃

### 3. 役員会等に関する事項

#### (1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 01. 6. 13	1. 公益財団法人和敬塾 平成 30 年度事業報告並びに決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 次期理事候補者並びに監事候補者、評議員候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 定時評議員会招集に関する件	原案どおり可決
	4. 公益財団法人和敬塾定款の変更に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告に関する件	報告事項
令和 01. 6. 29	1. 代表理事（理事長・専務理事）選定に関する件	原案どおり可決
令和 02. 2. 25	1. 「公益財団法人和敬塾 定款」変更の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 新任理事候補者選任に関する件	原案どおり可決
	3. 臨時評議員会の決議を書面決議にて行う件	原案どおり可決
	4. 塾の現状報告等	報告事項
令和 02. 3. 25	1. 公益財団法人和敬塾令和 2 年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 公益財団法人和敬塾長期修繕計画（令和 2 年度版）並びに資産取得計画（令和 2 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 代表理事（副理事長）の選定に関する件	原案どおり可決
	4. 職務執行状況報告	報告事項

#### (2) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 01. 6. 29	1. 公益財団法人和敬塾 平成 30 年度事業報告に関する件	報告事項
	2. 公益財団法人和敬塾 平成 30 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 次期理事の選任に関する件	原案どおり可決
	4. 次期評議員の選任に関する件	原案どおり可決
	5. 次期監事の選任に関する件	原案どおり可決
	6. 公益財団法人和敬塾定款の変更に関する件	原案どおり可決
	7. 塾の現状報告に関する件	報告事項
令和 02. 3. 14	1. 公益財団法人和敬塾 定款」変更の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 新任理事選任に関する件	原案どおり可決



#### 4. 附属明細書

令和元年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。